

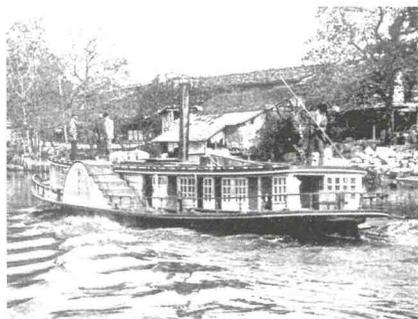
新井郷川に黒船が走っていた!?

1875(明治8)年、新潟〜葛塚の間
に定期的に蒸気船が走り始めました。
さまざまな人が蒸気船の運航に関わる
ものの、経営は赤字で、しばしば経営
者が変わっていました。

1902(明治35)年、新潟安進社とい
う会社が「安進丸」2隻を就航させまし
た。安進丸は長さ約21.8m、幅約4.5m、
畳敷きの客室で、定員は35人だったと
いわれています。

蒸気船は新潟の萬代橋付近を出発
し、沼垂から通船川を経て、阿賀野川
を横切り、新井郷川に入り松浜、名目所、
濁川、兄弟堀に寄港し、葛塚の下他門
に到着しました。行程は、約26km、約
2時間半を要しました。一時は天王(新
発田市)まで航行していました。

蒸気船特有の外輪をガラガラと回転



新井郷川を行く川蒸気船(他門付近)
提供/柏崎市立図書館

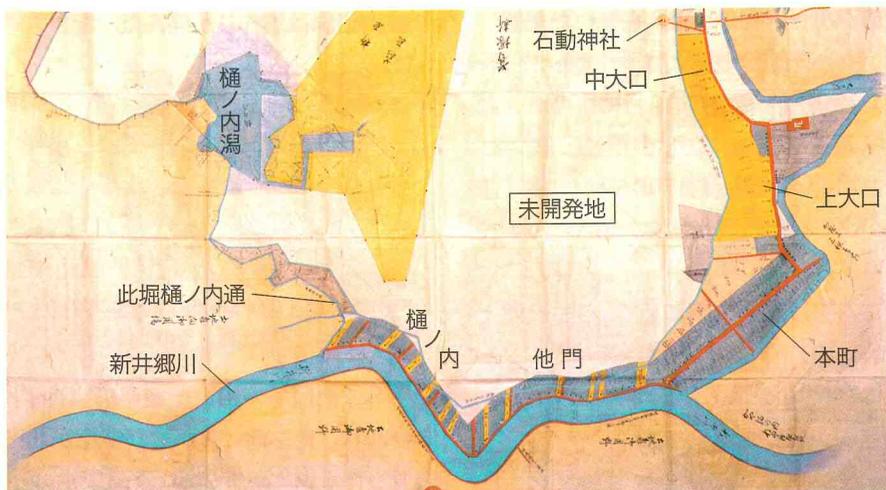
させて航行するこの船は、人々に「葛塚
蒸気」と呼ばれて、親しまれました。

しかし、鉄道や乗合バスなどの陸上
交通の発達により、蒸気船は昭和初年
に姿を消しました。その後も、砂利など
を運搬するための船や新潟の川開き
(現在の新潟まつり)の花火を見に行く
ための船が航行されていたようです。



『北区お宝のものがたり』は、博物館などで1冊800円で頒布しています。

250年前から町並みが作られていた！ 江戸時代の「葛塚」



1733 (享保18) 年の下興野新田絵図 (市指定文化財) より

■ どこが描かれているのでしょうか？

現在も変わらず残っている道路 (赤色部分) がヒントです。ここには新井郷川沿いの樋ノ内～他門～本町～上大口～中大口などが描かれています。

1731 (享保16) 年、阿賀野川の松ヶ崎堀割が決壊し、福島潟周辺に広大な干上がり地ができました。葛塚も本格的に開発が始まり、計画的なまち造りも行われました。絵図が作られた1733 (享保18) 年に、葛塚の大部分は未開発の土地 (白色部分) でした。しかし、できたばかりのまちの様子も描かれていて、当時の様子を知ることができます。

ここにまちができたのは、新井郷川を利用した舟運が盛んであったことや、となりの嘉山の河岸に新発田藩の米蔵があって、人の往来が多かったからです。

■ 進む開発、増える人口

開発が進むと、ほかの村や町から多くの人が移住してきました。葛塚市が開かれる少し前の1756 (宝暦6) 年の葛塚は、家数228軒、人口1,028人でした。しかし、江戸時代終わり頃の1864 (元治元) 年には、家数は658軒、人口も3,000人以上に増加しました。市場が開かれたことや特産の木綿織物「葛塚縞」の生産が増え、地域経済の中心となって栄えたことが理由です。

明治時代以後も、蒸気船の運航や白新線開通などで葛塚の人口は増加していきました。特に、白新線の開通にあわせて進められた開発では、豊栄駅南側に幅18mの道路や白新町が造成されました。現在も、葛塚地区は宅地化が進んでいます。